

「常呂川の洪水に思う」(抜粋・編集)

昭和37年8月 台風9号対応の思い出

『常呂川治水史』(昭和62年2月発行) 掲載

昭和36年8月、白滝村助役から常呂町に転じて、未だ町のようすも良く分らない8月中旬(注:8月4日の記憶違い)の午後10時頃だった。日吉支所長からの電話で「築堤中の日吉地区堤防が常呂川の増水で崩れ始めたので、役場職員の応援を願う」という連絡が入った。

早速、在庁の職員数十名に呼集をかけて、ダンンプカー2台と消防車1台に分乗して駆けつけた。

前日来の雨は止んでいたが、常呂川は増水し、堤防すれすれに濁流が押し寄せ、土盛りが固まっていないため、今にも崩れそうであった。すでに地域の人たちや消防団員が来ていて土のうを作り防護活動に懸命であった。その応援をしてようやく12時頃から水位が下がり始め、引き揚げることにした。

下流の方はまだ増水していて福山の平地一面や豊川から下流の堤内地一帯の畑は見えず、白々と冠水した水面と流れる水の音が重く響いていた。道道は日吉へ来る時通行できたのに、福山の22号付近は溢水が通路に進入して40〜50センチの深みに達していた。1号車は水煙を上げて突破したが、後続の車は途中で停車したら終わりという心配があったので空車で走ることとし、人は下車して道路際の山林を歩いてようやく帰途についた。

朝、常呂川岸に立つと、役場庁舎裏から対岸まで普段は草原である河川敷が一面濁流となって、すさまじい速さと勢いで流れていた。

私が常呂川の水害に遭った初めての思い出である。(略)

*注:『常呂町農業協同組合創立20年記念史』では、この台風被害のことを「9号台風の本道上陸により、8月3日より降り出した雨は常呂川上流でおよそ180ミリバールに達し、8月4日午後7時ごろより増水、日吉以北の農地に甚大なる被害を与えた。

この洪水は昭和16年以来のもので、被害面積812町歩、被害農家195戸、総額77,184千円となった」と記載。

*注:この台風9号の被害状況については、「あのとぎの常呂・写真館55号 昭和37年8月3・4日台風9号による洪水被害」に、「広報常呂」の特集ページを付けて紹介。

*注:「広報常呂」10月号には、台風9号の被害に寄せられた義捐金・義捐品を紹介しています。

義捐金(常呂地区校長会・浜佐呂間中学校生徒会・常呂町内小中高児童会生徒会
・北教組常呂支部・水津恵子・伊藤瞳・伊藤重次郎・生長の家白鳩クラブ・藤田綾子・常呂商工会・町役場理事者一同・町役場職員一同)
義捐品(常呂町内小中高児童会生徒会:衣類・学用品 錦水小中校児童生徒会:学用品)

*また、「福山小学校では、汁粉会を開き、災害に負けないでしっかり現況してくださいと子どもたちを激励しました」と紹介。